

令和4年度

教職課程

自己点検評価報告書

田園調布学園大学

令和5年3月

田園調布学園大学 教職課程認定学部・学科、大学院・専攻・免許状一覧

- ・ 人間福祉学部心理福祉学科
 - 中学校教諭一種免許状（社会）
 - 高等学校教諭一種免許状（公民）・（福祉）
 - 特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者）
- ・ 子ども未来学部子ども未来学科
 - 幼稚園教諭一種免許状
- ・ 大学院人間学研究科子ども人間学専攻
 - 幼稚園教諭専修免許状

教職課程自己点検評価のための基礎資料

- ・ 『大学機関別認証評価 自己点検評価書（日本高等教育評価機構・令和元年度）』
- ・ 『令和2年度自己点検評価書』
- ・ 『令和3年度自己点検評価書』
- ・ 『2022年度 履修要項』（人間福祉学部、子ども未来学部）
- ・ 学部シラバス（オンライン教務システムより検索・ダウンロード）
- ・ 『2022年度 履修要項・シラバス』（人間学研究科）
- ・ 『2022年度 大学案内』
- ・ 『2022年度 大学院案内』
- ・ 大学ホームページ
 - 「情報公開」 <https://www.dcu.ac.jp/overview/information/index.html>
 - 「教職課程」 <https://www.dcu.ac.jp/career/teacher/index.html>
 - 「実習教育」 <https://www.dcu.ac.jp/school/practice/index.html>
- ・ 大学教授会議事録、大学院教授会議事録、心理福祉学科会議録、子ども未来学科会議録
- ・ 『教職課程年報』（第1号～第6号、2017年～2022年）
- ・ 『教職課程履修ファイル』（本学における履修カルテ）
- ・ 「履修ファイル（教員用）コメントシート」
- ・ 『教育実習の手引き』（人間福祉学部、子ども未来学部）
- ・ 教職課程委員会会議事録
- ・ 学校法人調布学園 田園調布学園大学と川崎市麻生区との連携・協力に関する協定書」
- ・ 神奈川県教育委員会と田園調布学園大学との連携と協力に関する協定書

大学としての全体評価と教職課程の自己点検評価について

田園調布学園大学は、建学の精神である「捨我精進」を基本にして教育・研究・地域貢献の向上に資することを目指し教員養成を行ってきました。本学は、令和元年10月に公益財団法人日本高等教育評価機構による第3回目の認証評価の実地調査を受け、その結果、令和2年3月11日に、同機構の定めるすべての基準（1：使命・目的 2：学生 3：教育課程 4：教員・職員 5：経営・管理と財務 6：内部質保証）を満たしていると評価され、「適合」の判定を受けております。

教職課程の自己点検評価については、令和3年度より教職課程委員会を中心に情報収集を行い、本学の全学的組織である自己点検・評価委員会の助言を受けながら学部、大学院研究科において準備を行って参りました。

令和4年度より「教職課程の自己点検評価」が義務づけられ、このたび自己点検評価を実施し報告書を公開する運びとなりました。報告書作成にあたっては一般社団法人・全国私立大学教職課程協会作成の『「教職課程自己点検評価報告書」作成の手引き・令和4年度版（改訂版）』を参考にしました。また各基準領域・基準項目について、文部科学省教職課程の質保証のためのガイドライン検討会議「教職課程の自己点検評価及び全学的に教職課程を実施する組織に関するガイドライン」を参照し、学部・研究科にて点検評価を行いました。その内容をとりまとめ、本学の全学的組織である教職課程委員会が報告書を作成しました。

今回の自己点検評価を踏まえて、教職課程を支える全学的な取り組みをより一層充実させていくことが不可欠であるという認識をしております。本報告書をご覧の上お気づきの点やご意見などをお寄せいただきたく、お願い申し上げます。

田園調布学園大学

学長 生田 久美子

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	
III	総合評価	
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	
V	現況基礎データ一覧	

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：田園調布学園大学
- (2) 学部名：人間福祉学部 子ども未来学部 大学院人間学研究科
- (3) 所在地：神奈川県川崎市麻生区東百合丘 3 - 4 - 1
- (4) 学生数及び教員数

(令和 4 年 5 月 1 日現在)

学部	教職課程履修者数	在籍学生数
人間福祉学部	34 名	710 名
子ども未来学部	323 名	333 名
大学院人間学研究科	7 名	25 名

人間福祉学部	教職課程科目担当 (教職・教科とも)	学部専任教員数
中一種免 (社会)	6 名	31 名
高一種免 (公民)	6 名	
高一種免 (福祉)	6 名	
特支一種免 (知・肢)	3 名	
子ども未来学部	教職課程科目担当 (教職・教科とも)	学部専任教員数
幼一種免	9 名	19 名
大学院人間学研究科	教職課程科目担当 (教職・教科とも)	研究科専任教員数
幼専免	3 名	11 名

2 特色

本学の教員養成に対する理念は、建学の精神「捨我精進（しゃがしょうじん）」に基づいて、社会福祉の精神・知識・技術を基盤として、幼児教育や学校教育の現場で貢献できる人材を育成することである。

田園調布学園大学の建学の精神である「捨我精進」とは、自己本位の考えをできるだけ捨て、社会のために積極的に尽くし、精魂傾けて努力することを意味している。本学は、この建学の精神に基づく人間尊重を大切にし、時代の要請に対応できる柔軟な思考力と行動力があり、人間性豊かで、地域社会や国際社会の福祉に貢献できる教員を育成することを目標としている。

教員養成においては、この建学の精神をわかりやすく伝えるために、「考えよう。自分のために何ができるかではなく、他人（ひと）のために何ができるかを。」をスローガンとして学生指導をおこなっている。

具体的には、以下の 4 つの観点をめぐって、理論と実践の往還（おうかん：往復）を図りながら省察（せいさつ：深い反省と考察）を繰り返し、学生が自ら成長していくことを重視している。

- ① 教育に対する情熱と熱意
- ② 他と連携する協調性
- ③ 子どもが求めていることへの理解
- ④ 子どもの主体性を伸ばす指導力

子どもから高齢者までのすべてのライフ・ステージに対応する福祉を支える人材を養成する福祉教育を推進していることが、本学の教育の特性である。この趣旨を踏まえ、人間福祉学部には福祉領域の専門性を生かした「特別支援」、「福祉科」、福祉領域と深くかかわる「社会・公民科」の教職課程を設置している。また、教育・保育を支える人材を養成するため、子ども未来学部、大学院人間学研究科に、幼稚園教諭の教職課程を設置している。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

本学の各教職課程教育の目的・目標は次の通りである。

人間福祉学部心理福祉学科

建学の精神に基づき、人の一生を通じた多様な福祉ニーズに対応するために、心理と福祉の専門的知識を活用して、教育現場や福祉現場において貢献できる教員を養成することを目的とする。

子ども未来学部子ども未来学科

建学の精神に基づき、家庭や地域社会、他領域の専門家、行政と連携、協力して「子どもの最善の利益」を守り、子どもと社会の未来について深く思考しながら行動できる専門性の高い教員の養成を目的とする。

大学院人間学研究科子ども人間学専攻

「子どもを人間としてみる」という新しい保育観に立つ「子ども人間学」を基礎にして、人間学的学識に基づく質の高い実践家（省察的実践家）としての教員の養成を目指す。

以上のような教員養成の目的・目標および育成を目指す教師像を、学部、研究科のディプロマポリシー（DP）、カリキュラムポリシー（CP）と関連させて定め学生に周知している。

〔長所・特色〕

学部においては卒業認定・学位授与の方針を踏まえて育もうとする学修成果（ラーニングアウトカム）を、本学独自の「DCU 学士力」として可視化し、学修支援ツールとして運用を開始している。教職課程においてもすべての科目で DCU 学士

力による位置づけを行いシラバスに明記し、教職課程教育の目標・目的を教職員・学生が共有している。

研究科においては「田園調布学園大学学術図書出版助成事業」（令和元年度）の採択によって、専任教員等が共著『「子ども人間学」という思想と実践』を公刊し、育成をめざす教師像について学内外に共通理解を広める協働的な取り組みを行っている。

〔取り組み上の課題〕

人間福祉学部心理福祉学科は、令和 5 年 4 月に「共生社会学科」への名称変更を行う。学科名称の変更に対応した教職課程教育の目的・目標の確認、共有を行っていく必要がある。

子ども未来学部子ども未来学科は令和 4 年度の入学定員が未充足である。幼稚園教諭養成の目的・意義について、教職員・在学生のみならず社会全般において十分な理解が深まるよう今後も研究・社会貢献・地域活動を行っていく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

『2022 履修要項』

- ・人間福祉学部心理福祉学科カリキュラムマップ、カリキュラムツリー
- ・子ども未来学部子ども未来学科カリキュラムマップ、カリキュラムツリー

学部シラバス（DCU 学士力、アクティブ・ラーニング項目）

「2022 年度シラバス執筆の手引き」

教務委員会「シラバス執筆について（お願い）」

教職課程委員会・教務委員会「教職課程科目のシラバス執筆について（お願い）」

「非常勤講師連絡会・資料」

「非常勤講師連絡会・分科会記録」（子ども未来学部）

『「子ども人間学」という思想と実践』（生田久美子・安村清美編、北樹出版、2020 年）

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

本学は教職課程に関する全学的な組織として、2010年4月に教職課程委員会を設置した。委員の構成は、令和4年度においては2学部2学科と研究科の教職課程専任教員4名と教学支援課職員3名である。

教職員組織については、教職課程認定基準に適合する専任教員として、研究者教員と実務家教員を配置し、教科教育法の担当教員に実務家教員を配置している。実務家教員が担当する科目について学部シラバスにおいて「科目に関する実務経験」項目を設け具体的な内容を記載している。

組織的情報共有のために、教職課程委員会における審議・報告内容については委員・担当が学科、研究科に伝達している。教授会、学科会議録はオンラインで、大学院教授会、教職課程委員会を含む各委員会議事録は総務・経理課にて閲覧可能である。

教職課程教育のための図書・資料、模擬授業実施のための施設・設備は十分であり、教室の機器・備品はICT活用力・指導力の育成に適切な状態である。

FDについては教職課程を含むすべての授業について授業評価アンケートを実施し、その結果を学生、教職員に公開している。年間3回開催されるFD・SD研修に教職課程専任教員は全員参加しレポートを提出している。

教育職員免許法施行規則第22条6に定められた教職課程に関連する基本事項はすべて大学HPで公開し毎年更新している。2017年度より発行している『教職課程年報』においても「教職課程に関する本学の現状」の項目を設け、免許取得者数、科目、担当者一覧を掲載している。

本報告書作成プロセスに示すように、令和4年度の教職課程委員会の事業計画に教職課程自己点検評価を行うことを記載し、学内関係組織と協力し本報告書を作成した。

〔長所・特色〕

本学は全国私立大学教職課程協会、関東私立大学教職課程協議会、神奈川・山梨地区私立大学教職課程研究連絡協議会に加盟しており、教職課程委員が大会、研修会に分担し参加している。職員は大学教務実践研究会、京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会・教員免許事務勉強会にも出席し、その内容については会議で共有している。

教職員の共通理解に基づく新たな協働的な取り組みとして、令和4年度より「法人各校教職員情報交換会」を開始した。同一法人内の各校（田園調布学園中等部・高等部、調布幼稚園、田園調布学園大学・大学院、田園調布学園大学みらいこども園）の教職員が相互に「日常的な保育・教育活動の見学」を行う。①ありのままの教育活動を参観・見学し、園児・生徒・学生の姿を通して各校についての理解を深めるとともに、自己と自校を振り返り一層の向上を図り、②情報交換により教職員間の継続的な関係構築につなげることを目的とする。教職課程担当教職員にとっては各学校段階の教育現場における最新の活動と知見に触れる機会となっている。

〔取り組み上の課題〕

「教育職員免許法施行規則等の一部を改正する省令（令和3年文部科学省令第35号）」によって、①情報通信技術を活用した教育の理論及び方法に関する事項の新設と、②教職実践演習におけるICTの活用が義務づけられた。文部科学省においてはGIGAスクール構想が進められており、小中学生においても1人1台の学習用端末がほぼ整備された。本学の教職課程教育におけるICTの指導と活用は現段階では十分に基準を満たしているが、将来的には人的・組織的な基盤整備の拡充が必要となることが予想される。

<根拠となる資料・データ等>

FD・SD 授業評価アンケート、授業アンケートの振り返り

FD・SD 委員会授業公開参観者集計票、授業公開による研修報告書シート、授業公

開コメント・フィードバックシート

FD・SD 研修会動画

大学院授業アンケート、大学院「学生による授業アンケート」結果を受けて（報告書）

「法人各校教職員情報交換会」見学予定表、見学者アンケート

大学ホームページ

「情報公開」 <https://www.dcu.ac.jp/overview/information/index.html>

「教職課程」 <https://www.dcu.ac.jp/career/teacher/index.html>

「実習教育」 <https://www.dcu.ac.jp/school/practice/index.html>

オンライン教務システム「でんでんばん」施設予約システム

学部シラバス「科目に関する実務経験」項目

「2022年度 教務関係ご案内」 p.16

施設・設備・備品台帳

図書館蔵書目録 <https://library.dcu.ac.jp/drupal/>

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

各学部、研究科において入学に際して求められる基礎的な知識や専攻分野への関心、意欲、態度、求める学生像をアドミッション・ポリシー（AP）として定めている。AP は学生募集要項をはじめ、「高校生のための入試ガイド」、学部、研究科のホームページ、大学ポートレート等に掲載し、入学志願者及びその保護者並びに高校の進路指導担当者ほか社会への周知を図っている。

学部では教職課程教育がめざす学生像について、オープンキャンパス、高校ガイダンスなどでも直接、高校生・保護者に説明を行っている。卒業認定・学位授与の方針を踏まえて、学部の教職課程に即した適切な資質をもつ学生を受け入れている。また、大学ホームページの「教職課程」サイトにおいて下記の情報を公開している。

- ・ 本学の教員養成に対する理念と育てたい教員像
- ・ 人間福祉学部心理福祉学科の教員養成に対する理念と育てたい教員像
- ・ 子ども未来学部子ども未来学科の教員養成に対する理念と育てたい教員像
- ・ 人間学研究科子ども人間学専攻の教員養成に対する理念と育てたい教員像

〔長所・特色〕

学部においては、学生が自分の履修状況を記録し振り返り、教職課程の学修目標を達成するためのポートフォリオ（履修カルテ）として『田園調布学園大学履修ファイル』システムを作成・運用している。ファイルには学科の教員養成の目標、教職課程の履修や教師に求められる心構え等の説明を記載している。

教職課程の履修を始めようとする学生には、教職ガイダンスを実施し、本学の教員養成の目標、教職課程の履修や教師に求められる心構え等の説明をしている。履修開始・継続に求められる能力や心構えを学生が理解できるように『履修ファイル』には自己チェックリストを設けている。また、『教育実習の手引き』に、実習実施

要件の説明を記載している。

「教育の基礎に関わる科目」については、「履修ファイル（教員用）コメントシート」システムを運用している。その内容を4年次の「教職実践演習」（心理福祉学科）、「保育・教職実践演習（幼稚園）」（子ども未来学科）で活用し適切なフィードバックを行っている。

研究科においても新入生に教職ガイダンスを実施している。また、教育・保育に関するシンポジウムと大学院説明会を開催し、専修免許への上進可能性をもつ現職保育者に向けて情報提供を行っている。令和4年度は第8回大学院シンポジウム「インクルーシブ社会にむけた保育・教育」をハイブリッド開催し、心理福祉学科長・小山望教授が講演を行った。シンポジウムの成果は報告書としてまとめ、地域の幼稚園・認定こども園などに送付している。

〔取り組み上の課題〕

心理福祉学科は令和5年4月より「共生社会学科」への名称変更を行う。名称変更とともに入試広報活動の充実をはかり、教職へのキャリアを高校生に積極的にアピールしていく必要がある。

子ども未来学科は令和4年度の入学定員が未充足である。幼稚園教諭養成の目的・意義について、高校生・保護者のみならず社会全般に十分な理解が深まるよう広報活動を行っていく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

「学生募集要項」

「高校生のための入試ガイド」

『2022 履修要項』（「DCU 学士力」について）

- ・ DCU 学士力（基礎力）
- ・ DCU 学士力（専門性）心理福祉学科
- ・ DCU 学士力（専門性）子ども未来学科

『教育実習の手引き』

『田園調布学園大学教職課程履修ファイル』

「履修ファイル（教員用）コメントシート」「評価基準および評価コメント」

「心理福祉学科履修ファイル用評価コメントシート対象科目」

「子ども未来学科履修ファイル用評価コメントシート対象科目」

教職ガイダンス資料

大学院シンポジウム報告書、ポスター（第1回～第8回、2015年～2022年度）

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

学部では、教職課程設置学科の教育・支援体制に加えて、学生の教職へのキャリア支援のために、進路に関する相談、指導、助言のための事務組織である学生生活・進路支援課に進路担当の職員を4名配置している。あわせて各学科の教員と当該職員により構成される進路指導委員会が就職支援、学生個人データベースの作成、教職インターンシップの支援を行っている。

研究科では研究指導担当教員を中心に就職や進学に対する相談・助言体制を整備している。社会人を受け入れ、現職教員が幼稚園教諭専修免許状を取得できるように、平日夜・土曜に授業を開講している。修了に際しては免許状の一括申請等の事務を教学支援課で行っている。

〔長所・特色〕

人間福祉学部においては教職課程履修学生の進路希望、教職志望理由等についてアンケート調査を行いその結果を集計・分析している。その結果を踏まえて、教職志望学生への支援をより充実させるために令和2年度より「特別支援教育コース」を設けた。教職課程専任教員が、教員採用試験を受験する学生に試験対策の指導を行っている。また教員となっている卒業生と教職課程履修学生が懇談する会を毎年実施している。

子ども未来学部においては、同一学校法人が運営する「調布幼稚園」「田園調布

学園大学みらいこども園」において教育実習、学外研修、ボランティア活動を実施している。

研究科の教職課程履修生ならびに在学時に教職課程を履修していた修了生に対しては、幼稚園教諭一種免許状授与の資格取得のために、子ども未来学科の教職課程を履修する場合、登録検定料の免除、履修料の二分の一の額を減免する制度を整えている。

〔取り組み上の課題〕

人間福祉学部においては2年次に、子ども未来学部においては1年次に教職課程履修登録を行うが、卒業までに履修を取りやめる学生が微増している。特別支援学校教諭については神奈川県、横浜市、川崎市などから大学推薦枠の指定があり、毎年、応募・合格者を輩出しているが、枠を使いきれていない年もある。

子ども未来学部は幼稚園教諭免許と保育資格の同時取得を原則としていたが、令和元年度入学生より幼稚園教諭免許取得が選択制になり、取得を希望しない学生が微増している。

<根拠となる資料・データ等>

教育実習配属一覧

大学推薦枠学内選考公募書類、選考結果報告書

教員採用候補選考試験における大学推薦に係る学内公募出願理由書

採用試験対策講座企画書・稟議書

教育実習報告会資料・報告書

実習体験報告会資料・報告書

教育職員免許状一括申請説明会（前編）（後編）資料

進路指導委員会議事録、学生進路先情報

実習委員会議事録、実習連絡会資料

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

学部では、入学時点では教職課程設置学科の全学生が教職課程を履修できる制度となっている。教職課程コア・カリキュラムが公表されている科目にはすべて対応しており、法施行に先行して令和 4 年度カリキュラムから ICT 科目を配置し変更届を提出した。

大学全体としてアクティブ・ラーニングを奨励し、シラバス作成時に教務委員会から依頼を行っている。また、教職科目だけでなく、すべての科目のシラバスで学習内容、評価方法を明示している。

研究科では、専修免許取得希望者のために複数の教職科目が時間割の同じ枠に配置されないよう工夫している。

〔長所・特色〕

教育実習を行う上で必要な履修要件、実習要件科目を設定して学びの順序性を担保している。4 年次の「教職実践演習」（人間福祉学部）、「保育・教職実践演習（幼稚園）」（子ども未来学部）の指導のために、『履修ファイル』と「履修ファイル（教員用）コメントシート」を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行っている。

〔取り組み上の課題〕

人間福祉学部心理福祉学科は、令和 5 年 4 月より「共生社会学科」への名称変更を行う。学科名称の変更に対応したカリキュラム、教職課程教育の編成を点検する必要がある。

子ども未来学部は令和 4 年度の入学定員が未充足であり、学部改革 WG において小学校教諭、特別支援学校教諭免許課程の設置を検討している。カリキュラム改革によって学部学科の新たなブランディングを行い、高校生に保育・教育の魅力をアピールしていく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

『2022 履修要項』

- ・ 人間福祉学部心理福祉学科カリキュラムマップ、カリキュラムツリー
- ・ 子ども未来学部子ども未来学科カリキュラムマップ、カリキュラムツリー

『教育実習の手引き』

『田園調布学園大学教職課程履修ファイル』

「履修ファイル（教員用）コメントシート」「評価基準および評価コメント」

「心理福祉学科履修ファイル用評価コメントシート対象科目」

「子ども未来学科履修ファイル用評価コメントシート対象科目」

学部シラバス（DCU 学士力、アクティブ・ラーニング項目）

教務委員会「シラバス執筆について（お願い）」

教職課程委員会・教務委員会「教職課程科目のシラバス執筆について（お願い）」

『2022 年度シラバス執筆の手引き』

2022 年度大学院時間割表

施設・設備・備品台帳

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

建学の精神「捨我精進」に基づき、地域連携活動及び産官学連携等を行う部署として 2009 年 4 月に地域交流センターを開設している。2016 年 11 月には神奈川県教育委員会と「連携と協力に関する協定」を締結した。神奈川県教育委員会は、本学の他、神奈川県内の高等教育機関及び企業と協定を結び、県立高校生学習活動コンソーシアム協議会を設置している。協議会のメンバーとして、本学は出前授業、公開授業、体験学習を提供し、教育委員会との組織的な連携協力体制の構築を図っている。

ほかに「田園調布学園大学・麻生区連携協議会」「聖マリアンナ医科大学・田園

調布学園大学・宮前区連携協議会」「街づくり大学ネットワーク（愛称「しんゆり大学」）などの協定を結び、地域と連携した実践的指導力の育成をはかっている。

〔長所・特色〕

人間福祉学部は、横浜市教育委員会と連携し、本学教職課程サイトと「横浜市教育委員会大学連携サイト」「横浜市教育委員会動画『先生になりたい』」とリンク共有している。また、川崎市教育委員会教職員人事課採用課による「教職ガイダンス」を実施している。

子ども未来学部は、川崎市との連携により「田園調布学園大学みらいこども園」を同一学校法人が運営しており、学生の実習、学外研修、ボランティア活動を行っている。また麻生区との連携事業として「あそぼう！けろけろ田園チャイルド」「キッズアート田園『夢がふくらむ WAKUWAKU ランド』」を実施し、学生が地域の親子と直接交流する場を設けている。

幼稚園教育実習協力校と教育実習の充実をはかるために、毎年の実習報告会と重ねて実習連絡会（2年に一度）を開催している。グループ討論も行いその結果をまとめて学科教員が共有し、教育実習の改善に役立てている。

令和4年度には大学内の施設を使って地域の親子が集い子育てを楽しむ交流の場として子育て支援室「DCU 子どもひろば：みらい」を開設した。地域のなかで学生が実践的指導力を身に付ける機会を拡充している。

研究科では、神奈川県、東京都で質の高い教育を行う幼稚園・認定こども園の園長を非常勤講師として招へいし実践的指導力の育成をはかっている。園見学などの学外研修の機会も設け地域と連携した教員養成を行っている。

〔取り組み上の課題〕

新型コロナウイルス感染症対応のために、地域との連携が制約されて3年間が経過した。パンデミックを契機として普及したオンライン化、事務のスリム化などのメリットを活用する一方、「コロナ前」をめざし地域との連携事業を再び広げていくことが望まれる。新設された子育て支援室「DCU 子どもひろば：みらい」を核に、子ど

も未来学部だけでなく、他の学部、研究科も協力し、教職学生の実践的指導力の育成の場を充実させていくことが望まれる。

<根拠となる資料・データ等>

学校法人調布学園 田園調布学園大学と川崎市麻生区との連携・協力に関する協定書

神奈川県教育委員会と田園調布学園大学との連携と協力に関する協定書

「麻生区・6大学 公学協働ネットワーク」に関する協定書

「あそぼう！けろけろ田園チャイルド 開催案内」

「キッズアート田園『夢がふくらむ WAKUWAKU ランド』」開催案内

「教育実習」「幼稚園教育実習Ⅰ」「幼稚園教育実習Ⅱ」実習先一覧

子ども未来学科実習連絡会（令和3年度）

教職トピックス

「横浜市教育委員会大学連携サイト」

「横浜市教育委員会動画『先生になりたい』」

「DCU 子どもひろば：みらい 開催案内」ポスター、記録動画

Ⅲ. 総合評価

人間福祉学部では人の一生を通じた多様な福祉ニーズに対応するために、心理福祉学科において心理と福祉の専門的知識を活用して、教育現場や福祉現場において貢献できる教員を養成してきた。6つの基準項目において文部科学省のガイドラインの観点を満たしているが、教員採用試験合格者数は減少傾向にある。令和5年度における共生社会学科への名称変更とともに「特別支援教育コース」の充実をはかる必要がある。

子ども未来学部では家庭や地域社会、他領域の専門家、行政と連携、協力して「子どもの最善の利益」を守り、子どもと社会の未来について深く思考しながら行動できる専門性の高い教員を養成してきた。6つの基準項目において文部科学省のガイドラインの観点を満たしているが、令和4年度の入学定員が未充足である。幼稚園教諭養成の目的・意義について、高校生のみならず社会全般において十分な理解が行われるよう研究活動・社会活動を行っていく必要がある。

大学院人間学研究科では「子どもを人間としてみる」という新しい保育観に立つ「子ども人間学」を基礎にして、人間学的学識に基づく質の高い実践家（省察的実践家）としての教員の養成を行ってきた。入学定員5名という規模と専修免許状制度の特殊性はあるが、研究科の基礎となる学部である子ども未来学部と有機的に協働し6つの基準項目において文部科学省のガイドラインの観点を満たしている。

Ⅳ 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

令和3年度の活動

◆教職課程委員会：第3回・第4回会議（6月、7月）

「教職課程の質保証のためのガイドライン検討会議」による「教職課程の自己点検評価及び全学的に教職課程を実施する組織に関するガイドライン」（令和3年5月7日、3文科第117号）の検討

◆大学教授会：第3回（7月）

教職課程委員会より報告・資料配布

- ・「教職課程の質保証のためのガイドライン検討会議について」
- ・「教職課程の自己点検・評価及び全学的に教職を実施する組織に関するガイドライン（概要）」
- ・教職課程の自己点検・評価ガイドライン（概要）に基づく点検・評価項目」

◆教職課程委員会：第5回・第6回・第7回会議（8月、9月、10月）

全国私立大学教職課程協会「『教職課程自己点検評価報告書』作成の手引き（令和4年度版）」検討

◆大学教授会：第4回（10月）

教職課程委員会より報告・資料配布

- ・全国私立大学教職課程協会「『教職課程自己点検評価報告書』作成の手引き（令和4年度版）（抜粋）」

◆教職課程委員会：第8回・第9回会議（11月、12月）

全国私立大学教職課程協会より加盟校に提供された「報告書様式」を検討・採用

◆大学教授会：第5回（12月）

教職課程委員会より報告・資料配布

- ・全国私立大学教職課程協会「令和4年度版教職価値自己点検評価報告書」様式
- ・教職課程自己点検評価報告書の作成と公表（令和4年度）について
- ・大学HPにおける教職課程の情報公開状況（2021年12月）

◆自己点検・評価委員会：第6回（2月）

教職課程委員長より教授会資料について補足、意見聴取

◆教職課程委員会「令和4年度の事業計画」の提出（2月）

令和4年度の事業の1つとして教職課程自己点検評価報告書の作成を記載

（2022年3月の理事会・評議員会にて審議了承）

令和4年度の活動

◆教職課程委員会：第1回・第2回・第3回会議（4月、5月、6月）

全国私立大学教職課程協会『教職課程自己点検評価報告書』作成の手引き（令和4年度（改訂版）」の確認。教育職員免許法施行規則の改正に伴う法令由来事項の充足についての自己点検評価を実施

◆教職課程委員会：第4回・第5回会議（7月、8月）

教職課程の情報公開 HP 掲載事項の点検

◆教職課程委員会：第6回・第7回会議（2022年9月、10月）

全国私立大学教職課程協会「自己点検評価報告書」記入フォーム2」の活用を決定。3基準領域6基準項目について、学科・研究科の「自己点検・評価書（令和3年度）」等を参考に「令和4年度自己点検評価報告書（10月案）」を作成、学科、研究科から意見聴取

◆教職課程委員会：第8回・第9回会議（2022年11月、12月）

学科、研究科の検討結果を受けて「令和4年度教職課程自己点検評価報告書（11月案）」を作成

◆自己点検・評価委員会（2022年12月）

教職課程委員会より「令和4年度教職課程自己点検評価報告書案（11月案）」について報告・所見送付を依頼

◆教職課程委員会：第10回会議（2023年1月）

自己点検・評価委員会からの所見をもとに「令和4年度教職課程自己点検評価報告書案（1月案）」を作成。学部学科、大学院研究科に報告

◆教職課程委員会：第11回会議（2023年2月）

「令和4年度教職課程自己点検評価報告書」案（最終版）を作成、学長に報告

◆教職課程委員会「令和5年度の事業計画」の提出（2月）

令和4年度教職課程自己点検評価に基づいた事業計画（令和5年度）の策定

◆教職課程委員会：第12回会議（2023年3月）

令和5年度以降の教職課程の自己点検評価のサイクル等について検討

◆大学 HP において「令和4年度教職課程自己点検評価報告書」を公表（3月）

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人 調布学園					
大学・学部名 田園調布学園大学 人間福祉学部、子ども未来学部、大学院人間学研究科					
学科・コース名（必要な場合） 心理福祉学科、子ども未来学科、子ども人間学専攻					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					257名 (うち7名大学院)
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					226名 (うち5名大学院)
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					96名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					31名
④のうち、正規採用者数					27名
④のうち、臨時的任用者数					4名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	26名 (うち8名 大学院)	22名 (うち3名 大学院)	4名	5名	
相談員・支援員など専門職員数 5名 (学生相談室・障害学生支援室)					